エフエムこしがや 知ってなっとく身近な防災 放送報告 「越谷市周辺における洪水への備え」

放送の趣旨

市民への防災の啓発、技術士会の防災支援活動と講演会の広報

放送日

2024年8月16日(金)午前10時~10時30分、 再放送 8月23日(金)午前10時~10時30分

出演者

公社) 日本技術士会 埼玉県支部 幹事

地域活性化委員会 委員長 若林直樹、防災支援活動グループリーダー 松本良一

放送概要

I 防災支援活動を紹介する前に、技術士会 埼玉県支部の紹介

技術の力で地域の発展に貢献し、活動項目は、防災支援活動、理科教室、技術課題相談会など

Ⅱ 防災支援活動の紹介

1. 活動の目的

目的は、防災支援活動の第一歩として洪水を対象に、住居周辺の危険性の広報を通じて、公助 と自助の課題克服と知識や技術の継承に寄与することで、理由は以下の4つである。

- (1) 大規模災害の中では、降雨予測に基づいて避難の時間を確保しやすい。
- (2) 近年頻発しており住民の関心が高く、地球温暖化に伴う気候変動との関連もある。
- (3) 気候や地理に関連しており、学校で習った基礎知識があり合意形成が得やすい。
- (4) 学生を対象にして、コミュニケーションとプレゼンテーションのスキルアップの機会を作り、同時に防災に関する知識と技術を継承する。

2. 防災支援の課題

災害への備えを高めるには、公助と自助の課題を克服することが必要で、洪水時の安全な避難 には、発災時の避難訓練だけでは不十分で、防災について日頃から考えることが不可欠である。

公助の課題

- (1) 人口減少による人手不足と、財源不足による公共事業が限界
- (2) 公助の限界について住民との合意形成
- (3) 分かりやすく入手しやすい避難情報への改善
- (4) 発災前の広報や教育(発災しやすい箇所とその原因など)が不足

自助の課題

- (1) 避難情報の収集不足
- (2) 洪水情報を入手する準備
- (3)聞き手の知識も不足しており改善が必要(住居周辺の危険性を知る)

3. 防災を日頃から考えるにあたって

- (1) 避難に備える必要性 🖙 洪水の危険を知る(浸水実績、平坦で湛水しやすい越谷市の地形)
- (2) 自助として避難判断に必要な情報
 - ①平常時の情報収集 洪水ハザードマップ、浸水ナビの活用
 - ②洪水時の避難判断に有効な住居周辺の河川水位の把握

4. 講演会の広報

9月1日 午前10時~12時 南越谷地区センター・公民館

以上